

2025
夏号

History



「桜梅桃李」という言葉が好き!

それぞれ可憐に咲き使命を果たしながら人々の心を和ませてくれる花・花・花。

一人ひとりが今、居る場所で自分らしく生き、自分らしく「きらきら」と輝いていける21世紀でありたい…。

Contents

- TOPICS：令和7年度男女共同参画白書
- ドラマとアニメで見る「女性像」の進化論
～昭和・平成・令和で何が変わった?～
- だれも取り残さないやさしい防災のかたち

まらきら

今、ひとりひとりが…

令和7年度

第77号

男女共同参画 主なイベント予定

ひゅーまんフェスタ 2025

人権にかかわる各種団体による展示・体験コーナー、スタンプラリー等を行います。



- ・日程：8/30(土)
12:00～15:00
- ・場所：ハイトピア伊賀 5階

女性防災サポーター
養成連続講座(全5回)

いつ起こるかわからない災害に備えて、男女共同参画の視点から、防災・減災のあり方について学ぶ講座です。

- ・日程：8/8(金)、10/24(金)、
12/5(金)、1/23(金)、
2/13(金)
19:00～21:00
- ・場所：ハイトピア伊賀 4階
(1/23のみ消防本部)
- ・定員：女性 50名

女性のための
就労支援講座

テーマ “わたしプラン” の描き方～働き方・お金・暮らしを考える～

これからも元気に過ごしていくために、女性特有の健康問題など、自分の身体について一緒に学びませんか。

- ・日程：8/29(金)
18:30～20:00
- ・場所：ハイトピア伊賀 4階
- ・定員：女性 20名

はじめての料理教室(単発講座)

初心者向けに簡単な料理に挑戦します。みんなでチャレンジしてみましょう!

- ・日程 8/12(火)、1/17(土)
10:00～13:00
- ・場所：ハイトピア伊賀4階
- ・定員：男性 12名(各回)

※参加費 500円(各回)



伊賀市国際交流フェスタ 2025

「伊賀市国際交流フェスタ 2025」に、木のボールプールやつみ木、男女共同参画の発信など、親子で楽しく学んで遊べるブースで参加します。



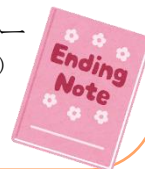
- ・日程：10/5(日) 10:00～15:00
- ・場所：とれたて市ひぞっこ
(伊賀市平野西町 1-1)

男女一緒に気づいて
広がる発見講座

テーマ 人生 100 年時代の終活講座～これからの人生を自分らしく生きるために～

終活を思い描くとき、慣習やしきたりに縛られず、“自分のため”の選択を見つけ、自分らしく人生を締めくくるために、少し立ち止まって考えるきっかけを学びます。

- ・日程：11/28(金)
14:00～16:00
- ・場所：ゆめぼりすセンター
(伊賀市ゆめが丘 1-1-4)
- ・定員：50名

申込み・お問い合わせは、男女共同参画センター(☎:0595-22-9632)まで!
詳細は開催前月の広報いかに掲載しています。

発行 (令和7年8月1日発行)

伊賀市 人権生活環境部 人権政策課

〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内 500 番地

TEL(0595)22-9632 FAX(0595)22-9666

編集

伊賀市男女共同参画センター情報紙「きらきら」

編集スタッフ

岡 久美子・竹山 佐代子

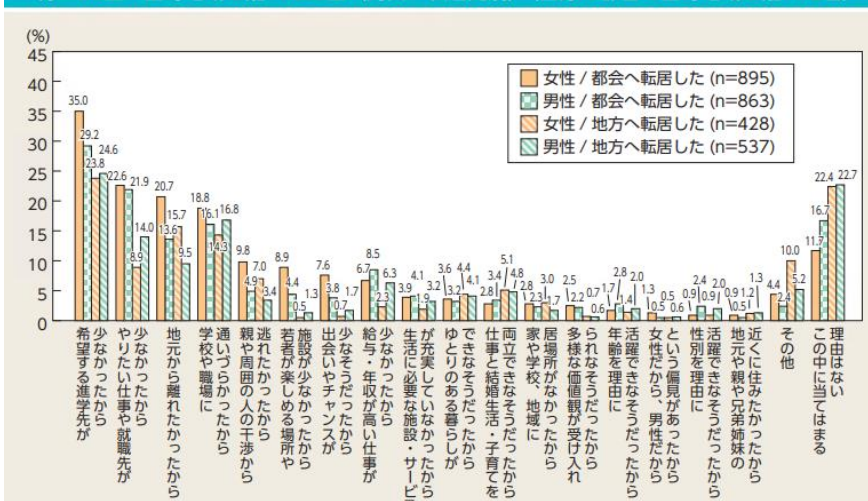
・的場 裕子・矢野 美幸

(担当) 永井口 英哲・正井 尚美



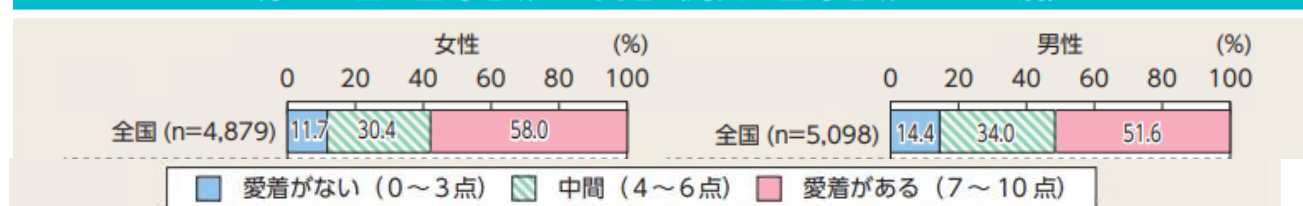
日本は少子高齢化や人口減少が急速に進行しており、地域社会の活力を維持・向上させるためには、女性や若者の活躍が今まで以上に重要視されています。しかし、実際には多くの若い女性が大学進学や就職、結婚などを機に地方から都市部、とくに東京圏へ移動しており、その後も地元に戻らない傾向が強いことが明らかになっています。その背景には、「希望する進学先や就職先が地元が少ない」「地元から離れたかった」「親や周囲の干渉から逃れたかった」といった理由が多く、とくに女性にこの傾向が強く見られます。

特-26図 出身地域を離れた理由（男女、転居先別）（自分の都合で出身地域を離れた者）



一方で、都市部に住む多くの女性は、出身地への愛着を強く持ち続けているという調査結果もあり、「いつかは地元に戻りたい」という思いを持つ女性も少なくありません。しかし、固定的な性別役割分担意識（家事や育児は女性の仕事とする考え方など）が地方には根強く残っており、これが地元回帰の障害や、将来的な不安につながっています。具体的には、地方に戻ることを考えたときに「経済的な不安」や「希望する仕事に就けるか」「生活の利便性」が女性の心配事として大きいことがわかっています。

特-43図 出身地域への愛着（男女、出身地域ブロック別）



このような状況を変えるために、性別によらず一人一人が能力や個性を発揮できる社会づくりが求められています。職場や学校、地域での性別役割分担の見直しや、女性が家事・育児・介護などの負担を一方的に担わされない意識改革、制度の見直しが必要です。また、女性のキャリア形成支援や起業支援、地域に女性リーダーのお手本となるロールモデルを増やす取り組みも重要です。加えて、女性の視点を活かした地域づくりや防災体制づくり、地域資源を活用した学びやキャリア教育の推進も求められます。

都市部のみならず地方でも、女性や若者が希望を持ち、自分らしい働き方・生き方を選択できることが、社会全体のウェルビーイング（幸福）や持続的な発展につながります。



令和7年版男女共同
参画白書について詳しく
知りたい方はこちら
【内閣府 HP】



ドラマとアニメで見る「女性像」の進化論 ～昭和・平成・令和で何が変わった？～

「昔のドラマは、なぜあんなに『専業主婦』ばかりだったのか？」と、今の若者が疑問に思うのも無理はありません。令和時代のメディアやポップカルチャーの女性像は、大きく変貌を遂げています。昭和や平成初期のドラマ・アニメを振り返ると、たいてい「おっちょこちょいだけど家族思いの妻」「黙々と男子を支えるヒロイン」など、“良き妻・良き母”が主役。反抗的な女性には「ワガママ」「生意気」とラベルが貼られがちでした。

変化する女性像：キャリアウーマンから戦うヒロインまで

ですが、平成後期から令和にかけて、風向きが大きく変わります。例えば人気ドラマの主人公は、バリバリ働くキャリアウーマンや、ひとり親で人生をたくましく生き抜くシングルマザー、あるいは結婚に縛られず自分軸で生きる女性——“多様な顔”を見せるようになりました。アニメにも、自分の夢を追いかけて奮闘する少女や、「守られるだけじゃない」戦うヒロインが次々登場しています。

背景にある社会の変化と視聴者の声

こうした変化の背景には、ジェンダー平等への関心の高まりや、視聴者からの批判的な目も影響しています。SNSやネットメディアの普及により、「女ばかり家事してる描写、おかしくない？」「女性リーダーを描いて！」といった声が即座に拡散。CMや広告でも、かつては「ママは〇〇しなくちゃ」というフレーズが当たり前でした

が、次第に男女逆パターンや、非伝統的な家族モデルが取り上げられるようになりました。

さらに、“セーラームーン”のような90年代のヒット作も、再解釈されることで現代的なフェミニズムの視点を加えたリメイクが生まれています。また、女性の友情や連帯、LGBTQ+など、多様な属性と絡み合った新たな女性像が描かれるようになりました。

残る課題とポップカルチャーの力

それでも課題は山積み。未だに「女らしさ」「男らしさ」に縛られる古い表現や、エンタメ界での男性主導・女性従属的なキャラづけも根強いです。ですが、こうした表現がSNS等ですぐに議論になる現代は、「気付いたら昔より数段、女性像がカラフル」に進化した“証”とも言えるでしょう。

今やポップカルチャーは“社会の鏡”。たかがフィクション、されどフィクション。メディアに映る女性たちの姿は、私たちの意識や価値観を静かに、そして確実にゆさぶりに続けているのです。



だれも取り残さない やさしい防災のかたち

みんなが望むやさしい防災って??

ジェンダー

更衣室、授乳室、洗濯ものの干場を
分ける。生理用品などの備蓄



持病や障がいがある人

障がいの状態は様々なので
情報を共有していると安心



高齢者

日頃から声掛けなどをして
小さな変化に気づく習慣を



外国語を主要言語とする人

言葉、習慣など違いを理解
数ヶ国語の表示は必要



やさしい防災 = こころの安心

ご近所さんに困ったときや地域の事などを聞いたりできますか？ 日頃からあいさつをしていると、いざという時の安心につながると思います。誰も取り残さない防災とは『一人ひとりの声が届く、共に支え合うこと』災害時こそ、女性や立場の弱い人の視点を取り入れることで避難所生活もよりやさしく、より強い形を築いていけると思います。



DVD「安心して避難所づくり～ ～男女共同参画の視点を避難所に～」 神戸地区 住民自治協議会生活安全部さん

被災地の避難所運営には被災者の積極的な運営参画が必要と考えます。
今回は生活安全部会での視聴でしたが、今後地域の自主防災会ごとの視聴が必要と考えました。特に女性に視聴していただく機会を増やす取組みを行います。
〇ハイトピア4Fの男女共同参画センターで貸し出しています、ご活用ください

「今年度からきらきらの編集に携わらせてもらうことになった永井口です。みなさんに楽しく読んでもらえる記事を作っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。」

